

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	ペリネイタル・ロスで子どもを亡くした母親に対して看護者とピアサポーターとのペアで家庭訪問をすることの評価				
研究組織	代 表 者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	太田 尚子
	研究分担者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	大和田 裕美
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	長屋 和美
		所属・職名		氏名	
	発 表 者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	太田 尚子

講演題目
ペリネイタル・ロスで子どもを亡くした母親に対して看護者とピアサポーターへの教育プログラムの開発
研究の目的、成果及び今後の展望
【研究目的】 死別を経験したご遺族のグリーフは正常な反応ではあるものの、ペリネイタル・ロス（流産・死産・新生児死亡）で、子どもを亡くした両親は、正常なグリーフから逸脱しやすく、遷延性悲嘆障害発症のリスクが高い。病院でのグリーフケアは、母親たちのニーズに沿ったケアが実施されるようになってきたが、地域での支援は道半ばである。厚生労働省は、ペリネイタル・ロス（流産・死産・新生児死亡）の地域での支援の充実を図ることについて通知を出しており、多くの自治体が取り組み始めている。しかしながら、これまで、子どもがいらないことを理由に、ペリネイタル・ロスを経験した母親への産後の家庭訪問を実施していない自治体が多い。そのため母親たちは、退院後の長いグリーフの期間、専門的な支援を受けることができないまま、孤独に過ごされている。一方、産後の家庭訪問を担当する看護職（保健師、助産師）も、母親に対してどのように接したらよいか分からないため不安を抱えている。本研究の目的は、既存研究で明らかになった、家庭訪問へのサポート・ニーズを基に、看護職とピアサポーターとがペアで家庭訪問するための研修プログラムを開発することである。 【研究成果】 1) コンパッション・コミュニティに関する文献、ペリネイタル・ロスの継続ケアや地域包括ケアに関する文献、海外でのガイドラインなどを検索して、研修プログラムの基本理念や方向性を検討した。その結果、死別体験者の個別臨床的なアプローチだけではなく、社会学者のAllan Kellehearの提唱した、同じコミュニティに生きる人間として分かち合い支え合うという、コンパッション・コミュニティ（compassionate communities）の概念を取り入れ、ピアサポーターと看護職が共感力を高めるプログラムを作成することとした。 2) 「ペリネイタル・ロスを経験した母親の行政へのサポート・ニーズ」と「ペリネイタル・ロスを経験した母親の家庭訪問におけるサポート・ニーズ」などの既存研究から、研修プログラムのゴール、取り入れる内容、家庭訪問におけるペリネイタル・ロスを経験した母親への具体的なサポートを抽出した。 3) インストラクショナル・デザインの研修会に参加して、研修プログラムの作成方法を学んだ。 【今後の展望】 アンドラゴジー論をベースに、Dick&Carey インストラクショナル・デザインの手順に沿って、教育ゴール、評価基準の設定、教授方法の検討、教材の作成を行い、ペリネイタル・ロスの研究者とのディスカッションを通して、プログラムを完成させる。その後、科研費を用いて、看護職とピアサポーターを対象に研修プログラムの実施、家庭訪問の計画立案、行政との調整、家庭訪問の実施、家庭訪問の評価を行う。